

ナマズの知恵袋

平成21年(2009年)12月1日
編集・発行 滋賀県立図書館

「お年玉付年賀はがき」はひとりの 大阪商人のアイデアより誕生

身近なモノのはじまりは？

毎年1月に抽選会がおこなわれる、お年玉付年賀はがき。当選番号と届いた年賀状を見比べる間のワクワクした時間は、それだけでちょっとしたお年玉とも言えるでしょう。この年明けの夢を与えてくれる「お年玉」は、ひとりの民間人のアイデアによるものでした。(『身近なモノの履歴書を知る事典』日刊工業新聞社 mook 編集部編 日刊工業新聞社 2002 [R 0314 ニ])

私達の身のまわりのもの、行事、言葉・・・もともとはどこからきたものなのでしょう。なじみ深く当たり前のようにあることが、思わぬ歴史を秘めていたり、先人の知恵や苦勞のうえにつくられていたりします。今回はそんな「もの」の由来について調べる資料をご紹介します。



国産家電1号は扇風機

国産の電気扇風機の登場は早く、『事物起源辞典 衣食住編』(第15版 朝倉治彦(ほか)編 東京堂出版 1989[R 0314 シ])によると、明治27年に東京電灯会社(東芝の前身)によって初めての国産家電として作られました。その当時はまだ高価だったため、食堂では、「扇風機付食堂」という看板を出し、店の宣伝にも使っていたようです。



明治時代のペットブーム

昨今のペットブームも様々な動物が対象となっていますが、明治時代にもそのはしりといえるブームがあったのです。それが明治初期の兎の流行でした。『図説明治事物起源事典』(湯本豪一著 柏書房 1996[R 0314 一])には、当時の異常なブームの加熱ぶりや、流行が下火となった後の兎の扱われ方を諷刺した絵が紹介されています。



江戸のネイルは薄めが良し

江戸時代には「爪べに」と言って、爪を紅で染めていたそうです。江戸時代の風俗百科事典の『嬉遊笑覧』(上・下 喜多村信節著 名著刊行会 1970年[R 0314 ㊦])によると、元禄時代の書物には「爪さきにぬること、うすうすとあるべし」とあり、爪に限らず口紅なども薄めが勧められていると紹介されています。こちらは岩波書店から文庫版も出版されています。『嬉遊笑覧』(全5巻 岩波書店 2002-2009年[G IY 275])



便利すぎたために封印

勞力を軽減するために発明されたものが、結果的に人々の仕事を奪うこととなり、使用が禁止されることもあります。18世紀後半からドイツで発行された、発明の歴史に関する書『西洋事物起原』(全4巻 ヨハン・ベックマン著 岩波書店 1999-2000年[G IB 477])によると、17世紀ヨーロッパでリボン織機がその運命をたどり、使用が禁止されたものの、18世紀にはいって、その有用性を認められて禁止は取り消されました。そしてこの本が出版された時には、画期的ともいえる、蒸気力を応用したもので発明されたそうです。

国産 ここに始まる

日本は古くから海外の技術を取り入れてきました。それらを自分たちの技術とし、国産のものを作るには、並大抵ではない苦勞があったことでしょう。国産技術の誕生が多くみられた近代に関する資料をご紹介します。

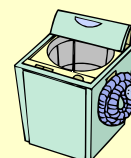
『明治・大正家庭史年表』 下川耿史編 河出書房新社 2000[R 2106 シ]

『昭和・平成家庭史年表』増補版 下川耿史編 河出書房新社 2001[R 2107 カ]

『戦後史大事典』増補新版 佐々木毅(ほか)編 三省堂 2005[R 2107 サ]

『事典近代日本の先駆者』 富田仁編 日外アソシエーツ 1995[R 2810 ト]

『国産はじめて物語』 レトロ商品研究所編 ナナコーポレートコミュニケーション 2003[G 5021 レ]



暮らしを楽しむヒント



私たちが何気なく使っているものや言葉。その由来には、ものや言葉が生まれた歴史やその時の人々の思いが詰まっています。普段の生活の中では、私たちがその由来について考える機会は、そう多くはありません。しかし、その由来をたどってみると、新たな発見があり、日々の生活がより楽しく味わい深いものになるのではないのでしょうか。

365日すべてに記念日がある！？

国民の休日の他にも、毎日いろいろな記念日があります。その日に起こった出来事にちなんだものや業界の宣伝・広告用、キャンペーン用の記念日など始まりはさまざまです。記念日が出来上がる過程も、語呂合わせやダジャレもあれば、法律が制定された日など多様です。「**記念日・祝日の事典**」(加藤迪男著 東京堂出版 2007[G 3869カ])によると、1月9日はとんちで有名な一休さん(「1」「9」さん)にちなんで「とんちの日」「クイズの日」と言われています。それぞれの記念日には、その時々世相が反映されていておもしろいものです。

「**記念日ハンドブック**」 日本記念日協会編 日本経済新聞社 2001[G 3869ニ]

「**国民の祝日**」の由来がわかる小辞典
所功著 PHP研究所 2003[G 3869ト]



お金だけじゃない！お年玉

お年玉といえばお正月の楽しみのひとつです。「**全国年中行事辞典**」(三隅治雄編著 東京堂出版 2007 [R 3861ミ])によると、年の初めに贈物をする習慣は室町時代にはすでに盛んで、お金の他にも太刀、硯、紙、筆、茶碗、綿、酒、タラ、フナ、イモ、菱餅などが贈られました。年玉は尊い者の魂を分け与えて身に付けることを物品で表現したものと考えられています。「**和の名前**」(三宮庄二監修 PHP 研究所 2008[7 2008 6])によると、年玉の語源は、歳神様による歳の初めの賜物からという説を紹介しています。

「**日本 まつりと年中行事事典**」 倉林正次編 桜楓社 1983 [R 3861ク]

「**暮らしのことば新語源辞典**」 山口佳紀編 講談社 2008[R 8136ヱ]



ワコールは和江留？

ペンネーム

ドラマ「坂の上の雲」の原作者・司馬遼太郎さんは皆さんもよくご存じの人物です。「司馬遼太郎」という名前は、「**ペンネームの由来事典**」(紀田順一郎著 東京堂出版 2001[R 9102キ])によると、昭和30年「講談社倶楽部」賞に『ペルシャの幻術師』を応募した時に、『史記』を編さんした司馬遷に遼か(はるか)及ばないという意味でつけられました。

社名

滋賀県の通称「江州」にちなんでつけられたのが、(株)ワコールの社名。「**誰かに教えたい社名の由来**」(本間之英著 講談社 2002[3 3354ホ])によると、同社は、「和江(わこう)商事」の名でスタート。創業者の父の郷里が「江州」だったことから、「江州に和す」という意味でつけられました。その後、「和江の名を永遠に留める」という意味を込めて「和江留(ワコール)」を商標とし、昭和32年に広く浸透した商標のワコールを社名にしました。

「**誰かに教えたい社名の由来**」 part 2
本間之英著 講談社 2002[3 3354ホ]

ひと目でわかる！サイン・ロゴマーク

標識や案内、商品や会社のロゴマークなど私たちの身の回りにはたくさんのシンボル・マークがあります。シンボル・マークには、意味や由来がギュッとつまっていて、なるほどと思わせるものがたくさんあります。また、日本と世界のマークを比べてみると、それぞれのお国柄が表れていておもしろいものです。下の図はヨーロッパと日本の道路標識を比べてものです。右は進入禁止、左はでこぼこ道を表しています。

「**世界のサインとマーク**」 村越愛策監修 世界文化社 2002[G 7270ム]

「**世界のマーク**」 太田幸夫監修 主婦の友社 2004[JH 72]

「**日本のロゴ**」[], 成美堂出版編集部編 成美堂出版 2007、2008[G 6743セ]



ヨーロッパ



日本



ヨーロッパ



日本